

経営比較分析表

東京都 三宅村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	100.00	4,050

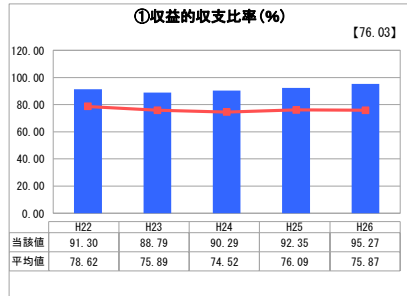
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,714	55.27	49.10
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,607	411.00	6.34

グラフ凡例

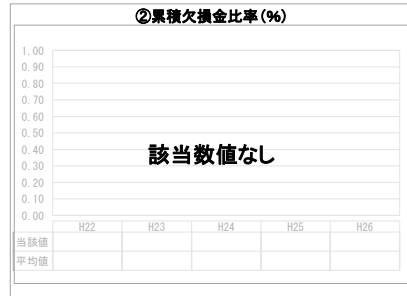
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

[] 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



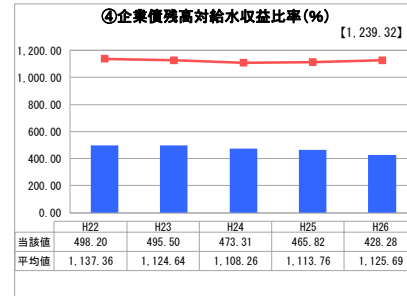
「単年度の収支」



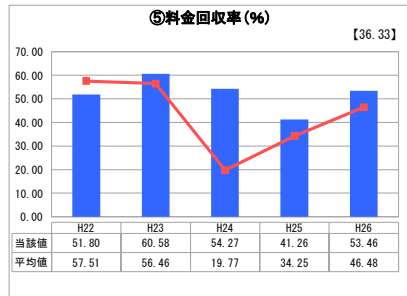
「累積欠損」



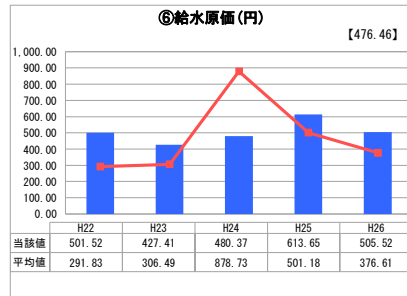
「支払能力」



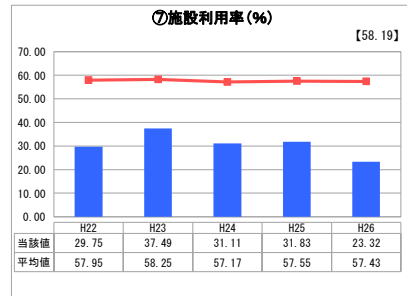
「債務残高」



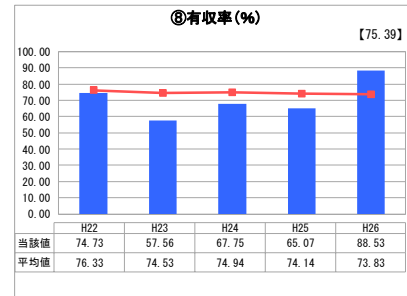
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

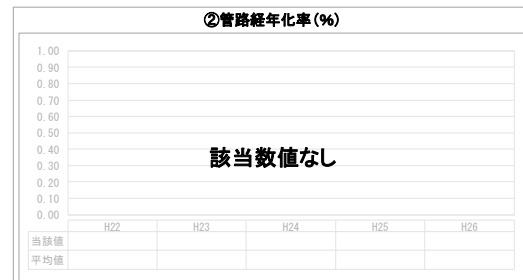


「供給した配水量の効率性」

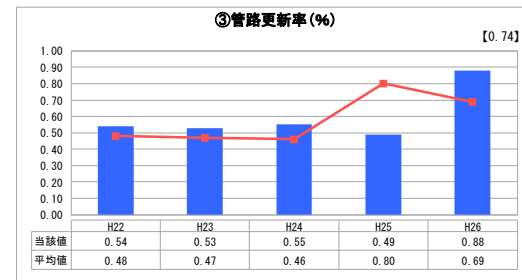
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

三宅村の簡易水道事業は、供給した配水量の効率性を示す有収率が類似団体平均を上回るような動向を示しているが、主な原因としては年度によって増減する漏水等とおもわれる。施設の効率性を示す施設利用率は類似団体平均を下回る水準で低下を続けており施設の余剰感を感じられるが、これは、島内に集落が点在する本島において必要な施設である。水道水1m³を作る費用である給水原価は、水質改善等の要因により類似団体平均より高い水準であることが影響し、費用を料金で賄っている状況である。料金水準の適切性を示す。料金回収率は類似団体平均より上回って見えるものの、料金回収率70%を下回る水準が続いており、原価割れ状態が継続している。単年度の収支を示す収益的収支比率は、類似団体平均より高くなっているが、実情として一般会計繰入金が大きく、三宅村の水道事業を支えているため、実際には経営赤字である。今後、抜本的な料金改正を視野にいれた事業展開が必要である。

2. 老朽化の状況について

三宅村の簡易水道事業の管路更新投資の実施状況を示す管路更新率が、類似団体平均より上回っている原因としては、管路更新により漏水を減らし、多少でも水道事業経営の圧迫を抑えていくため管路を更新したためである。

全体総括

三宅村の簡易水道事業は、一般会計繰入金の繰入がなければ赤字経営であるが、今後、抜本的な料金改正を視野にいれた事業展開が必要である。又、事業として管路の更新は基より、機器類等の更新が喫緊の課題となっていくとおもわれる。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。